

連載



Vol.18

DX導入ハウツー(2)「身近なDX導入事例」

キーワード DX、DX人材、DX導入事例

さんあいオフィス,Inc.
CEO・技術士(経営工学)

正井 慎悟

【資格・経歴等】

技術士(経営工学)他。日本技術士会中国本部 活用促進委員会副委員長。電気情報部会副部会長。

産官学金連携、医工連携、農水産～製造業～サービス業まで幅広く、全国の中小企業支援実績数は100社を超え、県内では数少ない「ものづくり技術、経営工学分野」の身近な専門家として活動しています。



●当連載について【広島県中小企業団体中央会】×【日本技術士会中国本部】

急激な社会変化への対応が求められる中小企業に、より適切な支援が実施出来るように、広島県中央会では日本技術士会の中国本部と連携し、技術的側面の支援体制を強化しました。

組合内あるいは企業内に、自社単独で解決困難な技術的課題がある場合は、連携支援部にご相談下さい。(TEL 082-228-0926)

はじめに

8月号でも触れましたが、「デジタイゼーション」、「デジタライゼーション」[DX]などの定義に拘らず、業務やサービスの向上、人手不足の解消などの課題解決を進められ、「(みんな)みんなが様変わり！」=変容に取り組んでいるDX導入事例について地元広島や全国を調査し、その中から参考となりそうな取組事例をいくつか紹介します。



1. 調査対象とした産業分類

広島県中央会会員は単独企業と異なる組織体制や業務目的など、多様な特徴と実態がありますので、先ず広島県中央

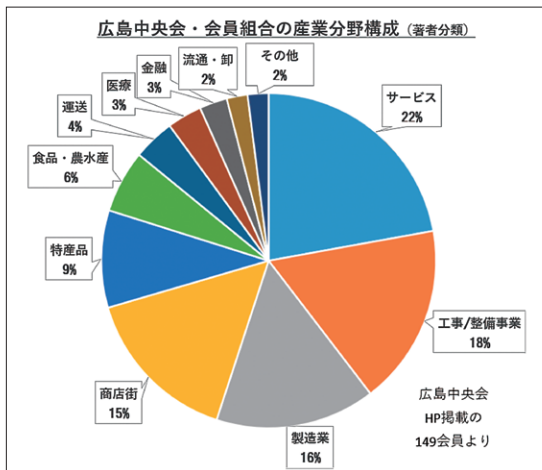


図1 事業分野構成

会のHPに掲載されている会員・組合149団体を、構成が多様なため正確さは少し欠けますが、産業分野別に構成割合を分析してみました。

結果は、上位から順に「(1) サービス業(外国人技能実習関連含む): 22%」「(2) 工事・整備事業等: 18%」「(3) 製造業: 16%」「(4) 商業・商店街: 15%」「(5) 特産品: 9%」となり、これら上位5つの合計で全体の80%を占めています。今回は、この5つにフォーカスを絞り紹介します。

2. 身近な「地域事業者」の導入事例

先ず最初に紹介するのは、順位は3位ではありませんが、DX導入が進んでいる、ものづくり製造業から、広島県内の中小企業の中で筆者が知る身近な地域事業者の取組事例3選をご紹介します。

【事例No.1】

- ①会社名:有限会社新谷精機
- ②地域:広島県呉市
- ③HP:なし
- ④社員数:24名
- ⑤業種:製造業(はん用機械器具製造業)
- ⑥取組テーマ:「工具管理のデジタル化(DX)による生産性の向上」
- ⑦取組内容:工具管理のデジタル化、3定管理、見える化
- ⑧成果:社内工数ロスの低減、機械稼働率の向上、モチベーションアップ、収益・付加価値額・給与支給額増。
- ⑨その他情報:広島県中央会賛助会員、アフターコロナ対応経営革新推進事業補助金を活用。みなさんにも身近な取組だと思います。

【事例No.2】

- ①会社名:日鐵鋼業株式会社
- ②地域:広島県福山市
- ③HP:<https://nittetu.jp/>
- ④社員数:50名
- ⑤業種:製造業(鉄鋼一次加工・販売)
- ⑥取組テーマ:「理屈じゃない3Sから始まったDX」
- ⑦内容:QRコードで在庫管理のデジタル化、作業指示のペーパーレス化、受発注管理。
- ⑧成果:社員の自主性、主体性、責任感向上、一体感、収益・給与支給額増、働き方改革。
- ⑨その他情報:2022年IE貢献賞受賞/日本インダストリアル・エンジニアリング協会(日本IE協会) **■**すごいですね。

【事例No.3】

- ①会社名:株式会社テイケン
- ②地域:広島県呉市
- ③HP:<https://www.teiken-corporation.com/>
- ④社員数:90名
- ⑤業種:製造業(窯業・土石製品製造業)(砥石)
- ⑥取組テーマ:「砥石加工プロセスにおける仕上・検査工程のDXスマート化」。
- ⑦内容:人手不足問題解消と検査データのデジタル化、協働ロボットシステム(Techman)を導入。
- ⑧成果:人手不足解消、働き方改革(作業負荷軽減)、収益・付加価値額・給与支給額増。
- ⑨その他情報:ものづくり補助金を活用。

いずれも製造業ですが、日本標準産業分類では中分類が異なる別分野になります。各取組内容はそれぞれ特徴があり、成果には時勢に応じた経営課題の「コロナの影響に負けない収益改善・付加価値額増・給与支給額増」などをあげられており、社外のDX人材や補助金なども上手く利用されています。

■ 3. 全国の「組合・団体」DX事例

上位残り4つの事業分野について、インターネットから全国の「組合・団体」の取組事例を調査しました。ここでは紙面の都合上、URLや簡単な内容紹介のみとなります。詳しく知りたい方は公開されている情報や各組合・団体のホームページを参照下さい。

【事例No.4】

●サービス業 組合・団体の事例

- ①団体名:九州アジア人材開発協同組合
- ②地域:鹿児島県
- ③HP:<http://kyushu-asia.com/>
- ④職員数:6名
- ⑥テーマ:「日報提出率が0%から100%に!!」
- ⑦取組内容:スマートフォンを利用した簡単入力と日報をデータのCVS化。
- ⑧成果:日報提出率低下の悩みを解消、作業負荷軽減、サービス向上。
- ⑨その他情報:地域のIT事業者を活用。

【事例No.5】

●工事・整備事業 組合・団体の事例

- ①団体名:埼玉県北部生コンクリート協同組合
- ②地域:埼玉県
- ③HP:<https://www.saihoku-namacon.jp/>

- ④職員数:10~20名
- ⑥テーマ:「組合内各社の情報共有・文書管理から業界のDXを推進!!」
- ⑦取組内容:業界では依然紙ベースのやりとりが中心であったが、ITツールを導入しデジタル化を推進。
- ⑧成果:確実に手ごたえを感じている。
- ⑨その他情報:地域のIT事業者を活用。

【事例No.6】

●商工業 商店街・商工組合・団体の事例

- ①団体名:全国商店街DXアワード実行委員会
- ②地域:全国
- ③HP:<https://shotengaidxaward.hp.peraichi.com/>
- ⑦内容: **■**全国24件の商店街から応募があり、地域の特徴に合わせて工夫された色々なDX取組事例を紹介。詳しくはHPを参照下さい。

【事例No.7】

●特産品 組合・団体の事例

- ①団体名:京鹿の子絞振興協同組合
- ②地域:京都府
- ③HP:京都市情報館HP:<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000308523.html>
- ④組合数:51社
- ⑤業種:製造卸や生産加工など多種で構成。
- ⑥テーマ:「web3で京鹿の子絞のファンを集め、育てる」
- ⑦取組内容:NFTの出品、YouTubeチャンネルの開設、HPの刷新と動画掲載、Instagramの開設など。 **■**独創的な取組内容になっています。
- ⑧成果:世界中の若い世代へ京鹿の子絞認知度向上、新たなビジネスモデルへの挑戦。
- ⑨その他情報:組合と京都市産業観光局、京都府中小企業団体中央会が連携。 **■**参考になる連携です。

■ 4. まとめ

前号でも触れましたように、大企業と異なり、中小企業や組合・団体の現場でDX導入が進みにくい理由は以下のような要因があげられます。

- ① 新たな技術への不慣れや不安。
- ② コミュニケーション(プロジェクト運営)の不安。
- ③ 業務プロセスの変化への抵抗。
- ④ 体制の制約、役割や責任の変化への不安。
- ⑤ リソースや予算の制約。

図2 消極的になりやすい要因

一方で、DX導入を進めるハウツーとしては
 (1)「失敗しない計画づくりや組織内での支援」
 (2)「外部のDX人材や資金(補助金等)の活用」
 (3)「身近な取組事例からお手本や「めざす姿のイメージ共有化」」
■この3つが、今回の知っ得ポイントになります。

以上、8月・9月の連載でご紹介できたのはほんの一例ですが参考になりましたでしょうか。

日本技術士会中国本部には私のような経営工学をはじめ様々な専門分野の国家資格の技術士がおり、産業界のみならず身近に相談できる専門家として技術的課題解決の支援を広島県中央会様と連携させていただいております。